

福島工業高等専門学校	開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	制御工学 I
科目基礎情報				
科目番号	0119	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義・演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	機械工学科 (R2年度開講分まで)	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	田中正吾 編著, 山口静馬, 和田憲造, 清水光 共著「制御工学の基礎」			
担当教員	鄭 耀陽			
到達目標				
①線形制御系の数学的表現ができる。 ②線形制御系の入出力応答を理解できる。 ③線形制御系の安定性を判別できる。 ④フィードバック制御系を理解できる。				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2				
評価項目3				
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	制御理論と手法を学びながら、演習問題を解きながら、制御工学の理解を深める。			
授業の進め方・方法				
注意点	数学的な内容が多くて授業中はノートを取り、積極的に質問するとともに、学んだ関連数学内容を復習し、提出が課せられた課題は必ず指定時間内に提出すること。 定期試験の成績を80%、課題や演習問題を20%として総合的に評価し60点以上を合格とする。			
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週 制御工学概論	制御の歴史、制御系の基本構成	
		2週 制御系の分類	制御系の分類	
		3週 ラプラス変換	複素演算、ラプラス変換	
		4週 逆ラプラス変換（1）	逆ラプラス変換	
		5週 逆ラプラス変換（2）	部分分数展開、微分方程式の解き方	
		6週 伝達関数	伝達関数の定義及び制御システムのモデル化	
		7週 基本要素の伝達関数	各基本要素の伝達関数	
		8週 中間試験		
	2ndQ	9週 アナロジー効果	機械系と電気系の相似効果	
		10週 過渡応答（1）	各基本要素の過渡応答	
		11週 過渡応答（2）	2次要素の過渡応答	
		12週 周波数応答（1）	周波数応答及びボード線図	
		13週 周波数応答（2）	2次遅れ要素の周波数応答	
		14週 ベクトル軌跡	ベクトル軌跡	
		15週 復習および総合演習		
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	機械系分野	力学	力は、大きさ、向き、作用する点によって表されることを理解し、適用できる。	4
				一点に作用する力の合成と分解を図で表現でき、合力と分力を計算できる。	4
				一点に作用する力のつりあい条件を説明できる。	4
				力のモーメントの意味を理解し、計算できる。	4
				偶力の意味を理解し、偶力のモーメントを計算できる。	4
				着力点が異なる力のつりあい条件を説明できる。	4
				重心の意味を理解し、平板および立体の重心位置を計算できる。	4
				速度の意味を理解し、等速直線運動における時間と変位の関係を説明できる。	4
				加速度の意味を理解し、等加速度運動における時間と速度・変位の関係を説明できる。	4
				運動の第一法則(慣性の法則)を説明できる。	4
				運動の第二法則を説明でき、力、質量および加速度の関係を運動方程式で表すことができる。	4
				運動の第三法則(作用反作用の法則)を説明できる。	4
				周速度、角速度、回転速度の意味を理解し、計算できる。	4
				向心加速度、向心力、遠心力の意味を理解し、計算できる。	4
				仕事の意味を理解し、計算できる。	4

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---